



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第53号

2011年9月1日

東日本大震災被災社叢調査報告とシンポジウム

## D.キーン名誉顧問と上田正昭理事長が講演と対談

11/16に学士会館(東京都千代田区)で

「今こそ、愛する日本に対する信念をあらわしたい」と、日本永住を決意したドナルド・キーン当学会名誉顧問と上田正昭理事長が顔をそろえる講演会・シンポジウムが実現する。

講演会では理事長の開催挨拶の後、被災社叢調査報告を交えて、森本幸裕理事、糸谷正俊理事に、公共政策における社叢の重要性を指摘してきた広井良典・千葉大学教授を交えて、被災地における社叢復興の意味・意義と方策について議論する。

引き続き、理事長とキーン名誉顧問が講演、さらに2人の対談で地域再生を論じる。日本の歴史文化の泰斗二人の顔合わせは、聞き逃せないものになるだろう。

開催日：11月16日(水) 午後1時～同5時

会場：学士会館(千代田区神田錦町3-28)

参加費：会員千円 非会員千500円(資料費)

参加申込：Mail・Fax・郵便で氏名及び連絡先(非会員のみ)を社叢学会事務局へ

13:00～13:05	開催挨拶：上田正昭(社叢学会理事長・京都大学名誉教授)
13:05～14:30	パネルディスカッション(被災社叢調査報告を交えて) 社叢が紡ぐ地域の絆 ～いのちと心を守る鎮守の森 パネリスト：森本幸裕(社叢学会理事・京都大学大学院教授)、糸谷正俊(社叢学会理事・(社)日本公園緑地協会大阪分室調査役)、広井良典(千葉大学教授) コーディネータ：菌田 稔(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授)
14:40～15:30	講演Ⅰ：鎮守の森と日本文化：上田正昭理事長
15:30～16:15	講演Ⅱ：東日本大震災と日本文化の再生： ドナルド・キーン(社叢学会名誉顧問・コロンビア大学名誉教授)
16:15～17:00	対談：文化復興が地域再生のカギを握る

## 第7回社叢インストラクター養成セミナー受講者を募集！

9月と11月に関西の社叢で

社叢学会では、地域の財産である社叢について詳しく調べ、その貴重性や現状を熟知し、保護し管理することができる「社叢インストラクター」の養成と資格認定を行ってきたが、今年度も別紙の通り、第7回社叢インストラクター養成セミナーを開催することとした。

これまで、社叢インストラクター資格取得には本セミナーの修了が必須とされてきたが、今年度からは必ずしも修了していなくても受験できることとし、期間も4日間と大幅に短縮した。とはいうものの、試験科目は本セミナーで網羅され、受講は受験の際に大いに役立つと思われる。

植生調査実習や土壌調査、さらに歴史的意義を学ぶ講義など、社叢管理を多角的にとらえることのできる本セミナーは、社叢インストラクターへの第1歩と言えるだろう。



## インドネシアでの国立公園の運営と 環境教育の実践に携わって

講師 建元 喜寿(筑波大学附属坂戸高校教諭)

高校教員として農業教育・環境教育実践のキャリアを生かし、青年海外協力隊員として、インドネシアで2年間、国立公園運営と環境教育そのほかの活動に携わった。また、帰国後も、筑波大学附属坂戸高校とインドネシアの現地コルニタ高校と提携・交流して環境をテーマに、現在もトヨタ財団他の助成を受け教育研究活動を進めている。

**筑波大学附属坂戸高等学校と総合学科** 筑波大学附属坂戸高校(筑坂高校)は、埼玉県中部の坂戸市に位置し、1946年創立、1953年東京教育大学の附属高校となる。1994年には、日本ではじめて総合学科を設置。総合学科高校は幅広い選択科目の中から生徒が自ら科目を選び学ぶところが特徴で、筑坂高校にも農場や工場を利用した科目など多くの選択科目がある。また、国際教育にも力を入れており、韓国や台湾、オーストラリア等での校外(修学旅行)学習や、タイからの留学生の受け入れ、またセミナー等を通じて、アジア各国の研究者と生徒との交流などを行ってきた。

**青年海外協力隊現職教員特別派遣制度** 国際協力機構(JICA)青年海外協力隊に現職教員特別派遣制度があり、全国の公立学校と国立大学附属学校の教員が身分を保持したまま協力隊に参加できる。4月から3ヶ月弱の派遣前の国内訓練(主に語学学習)があり、6月下旬に任地へ赴任、2年後の3月に帰国し、4月からすぐ職場に復帰できるように工夫されている。2008年度の環境教育隊員として、2年間、インドネシア西ジャワ州グヌングデパンランゴ国立公園に派遣された。

**インドネシアの国立公園** インドネシアの国立公園は全土に50箇所ある。私が派遣されたグヌングデパンランゴ国立公園は、1980年にインドネシアで初めて国立公園に指定された。首都からも近いため予算的には群を抜いて恵まれている。国立公園の制度はアメリカ等と同様、国が土地を保有する制度に基づいており、基本的には国立公園内は人が住む事も利用も禁止されている。インドネシアの国立公園が抱えている問題は、生活のため境界線ぎりぎりまで農民が開拓しており、地域住民が国立公園の自然を壊さずに生活を維持する方法を見出すことである。もうひとつはごみの投棄である。これはインドネシアだけでなく様々な途上国で見られるが、昔はバナナの皮など土にかえるもので問題はなかったのだが、プラスチックなどが急速に入ってきたので生活の変化に対応できない状態になっている。

**インドネシアにおける環境教育** JICAから国立公園のプロモーションと地元住民や公園利用者への環境

教育の要請を受け、投棄されたゴミの処理と開発問題を中心に活動。機会あって国立公園の29周年パーティーの企画として、ゴミに関する展示を計画、ゴミを分別すると、資源になること、またメタンが出ないために生ゴミからコンポストをつくるような展示も行なった。はじめからはっきりした仕事があったわけではなかったが、現地のニーズを観察しながら、地域の人々との関わりを続けていくうちに、声がかかるようになり、地域や学校での環境教育のセミナー等を行なっていった。はじめはセミナーの直後に、昼食等のゴミが散らばっていたりしてがっかりすることもあったが、2年くらいしているとスタッフもだいたい変わってきて、お互い注意しあったりするようになった。

**青年海外協力隊員として実現できたこと** JICAから受けたもう1つの要請は国立公園のプロモーションであったが、主な活動としては、ジャカルタの「さらさ」という現地のフリーペーパーに、国立公園の様子などを連載。また、(株)日本トリムという日本の飲料水メーカーとインドネシアの合弁会社を作った

「Pristine」という銘柄の水(唯一のミネラルウォーターで、たまたまグヌングデパンランゴ国立公園を水源とする)で、その会社にメールして、国立公園と企業がタイアップした商品をつくらないかとアイデアを持ち込み、実現させた。その会社の社長が同じ岡山出身という偶然があり、意気投合。これらの製品は国立公園ロゴ入りのインドネシア初の製品となった。今インドネシア全土で発売されている。国立公園のロゴ入り商品を販売し、合わせて企業から国立公園の自然保護活動や出前授業、啓発活動への支援を得られることになった。プロモーションや環境教育のほか、環境分野に貢献されている企業と国立公園を繋げるような活動にも発展できた。

**日本とインドネシアの高校生の協働プロジェクト**

青年海外協力隊に参加されて間もなく、筑波大学が文部科学省の国際協力イニシアチブ事業の指定を受け、インドネシアの高校で環境教育教材の開発を行うこととなり、そのインドネシア側の調整役を引き受けた。帰国後の2010年度からトヨタ財団のアジア隣人プログラム「インドネシアと高校生の協働による地域のゴミ問題の解決方法の提案と実践」と題したプロジェクトへの助成を得られ、更なる展開が可能となった。また本年は国連の「国際森林年」ということもあり、「森の聞き書き」をインドネシアでもできないかと計画している。インドネシアで昔から伝わる森の知恵や様々な人の生き方というものを発掘して次世代に残していけないか考えている。

(文責=大畑孝子)



## 第7回 社叢インストラクター 養成セミナー

鎮守の森をあなたの手で守りませんか？



地域の財産である社叢について詳しく調べ、その貴重性や現状を熟知し、保護し管理することができる「社叢インストラクター」を養成する講座を今年も開催いたします。

修了生からは社叢インストラクター資格取得者も輩出し、社叢調査に取り組んでいただいております。社叢インストラクターを目指し、ぜひご受講下さい。

日 時：2011年9月23日(金・祝)・24日(土)・11月26日(土)・27日(日) 計4日間

応募資格：社叢学会会員で、全日程に出席が可能な方。なお、過去のセミナーを受講された方は、全日程のうち、1日でも受講できます

募集人員：10名 ※申込者が3人に満たない場合は、中止いたします。

会場とスケジュール：

1日目 9月23日(金・祝) 水度神社(城陽市)または伏見稲荷(京都市伏見区)

講師：菅沼孝之・社叢学会副理事長など

9:30~12:00 講義：社叢とは、社叢の植物、植物社会、植物調査、土壌調査について

13:00~17:00 実習：樹種特定、樹高・樹冠・幹周り測定、中木・下木・下草、分布、健全度、林内明度、土壌状態、動物、その他管理状況等

課題 1日目の現状報告レポートの作成

2日目 9月24日(土) 水度神社または向日神社

9:30~11:00 講義：社叢の見方

糸谷正俊・社叢学会理事

社叢保全の問題点1(概観)

(社叢インストラクター)

11:00~12:30 社叢保全の問題点2(事例)

上田昌弘・社叢学会理事

(鎮守の社の会会長)

13:30~15:30 講義：社叢の歴史

井上満郎・社叢学会理事

15:40~17:00 講義：社叢インストラクターの活動

橋本完・社叢インストラクター

課題 2日目の各受講の感想レポート(各1,500字程度×3科目)

3日目 11月26日(土) 水度神社または伏見稲荷

9:30~12:30 講義と実習：社叢土壌調査Ⅰ

伊藤和男・大阪高専教授

13:30~15:30 講義：社叢の土壌動物

渡辺弘之・社叢学会理事

15:30~17:00 実習：社叢土壌調査Ⅱ

渡辺弘之・社叢学会理事

伊藤和男・大阪高専教授

課題 3日目の成果である土壌調査結果レポート

4日目 11月27日(日) 水度神社または伏見稲荷

9:30~12:00 講義：植物社会学から見た社叢の危機 菅沼孝之・社叢学会副理事長

13:00~16:00 社叢見学

16:00~17:00 グループミーティング(感想、問題点など)

受講料：正・賛助・協会員 20,000円 市民会員 23,000円(昼食代含)

持参品：『身近な森の歩き方』(文英堂刊：事務局で販売 @1,400)、筆記具、折り尺、双眼鏡\*、図鑑(樹木あるいは草本のものでも可)\*(\*は購入してまで持参する必要はありません)

申込書類：ホームページ(<http://www.shasou.org/inst.html>)掲載のものを印刷し、必要事項を記入の上、Mail・Fax・郵便で下記に

申込先：〒604-8115 京都市中京区雁金町373 みよいビル303号室 社叢学会事務局

申込締り：2010年9月20日(必着)

受講手続：受講が決まった方には、振込用紙をお送りいたしますので、受講料をお納め下さい

養成講座受講の留意点

- ① 実習は必修科目です。講義は、社叢学会定例研究会(養成講座座学代替研究会の表記のあるものに限る)出席に代替できます
- ② 各課題は、2カ月以内に事務局に送付してください。各講師が採点し、提出者にすみやかに返却します
- ③ 4日間受講し課題を提出した者に関しては講座修了書を渡します(資格試験受験の際に必要な場合があります)
- ④ 宿泊が必要な時は、各自で確保してください

- ★ 最新情報は社叢学会ホームページ (<http://www.shasou.org/meeting.html>) に掲載しています。ぜひ、ご覧下さい。
- ★ 開催日の迫った定例研究会のご案内は、E-Mail で配信することもあります。ご希望の方は、アドレスを事務局宛てお知らせください。shasou@ams.odn.ne.jp です。

### 次回予告【第32回中部定例研究会】

- ◆日 時：2011年9月14日（水） 13:30～15:30
- ◆集合場所：三嶋大社客殿受付（三島市大宮町2-1-5 TEL055-975-0172）
- ◆テーマ：三嶋大社の祭典及び社叢について
- ◆話題提供：大川 公（三嶋大社客殿担当主任）

### 次回予告【第46回関西定例研究会】

- ◆日 時：2011年9月24日（土） 13:30～15:30
  - ◆場 所：向日神社（向日市向日町北山63番地）
  - ◆テーマ：社叢の歴史と文化
  - ◆講 師：井上満郎（社叢学会理事・京都産業大学名誉教授）
- ※ 第7回社叢インストラクター養成セミナーとの合同講座です

## 東日本大震災被災社叢調査報告とシンポジウム 参加申込書

FAX：075-212-2916

会員番号

お名前

携帯電話番号・携帯アドレス等当日連絡先(お差し支えなければご記入ください)

ご同伴者全員のお名前

住所や E-Mail アドレスを変更されましたら、ぜひ事務局にご一報ください。  
宅配便メールを利用しておりますので、新住所には転送されません。  
お手数ですが、よろしくお願いいたします。



## 神社と社叢の文化

講師 園田 稔(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授)

**東日本大震災被災地で** 気仙沼では、かねてより海を豊かにする森の役割に着目した畠山重篤氏(牡蠣・帆立養殖業)が、水源である室根山への植樹活動などを行ってきたが、今回の災害で養殖場はすべて破壊され、大打撃を受けた。畠山氏はそれでも、海そのものに怨みはないと言うが、これこそが日本人の、大自然に対して尊敬・畏敬・信頼の念を抱き、自然に従う自然観の現われだと思う。さらに畠山氏は、事業を息子や孫に託すことができるから再興の気力が涌いたとも述べている。これも受け継がれ、次々につながっていくことに生きがいを見出す日本人の命の捕らえ方であろう。

また、被災地は神仏への思いが強い地域で、犠牲者をどう供養するか、また、心理的痛手が深刻な辛うじて生き残った人がどう立ち直るか、が大きな問題となっており、神職や僧侶が真剣に取り組んでいるのが印象に残った。

「**神道**」と「**神社**」 神道という言葉の初出は『日本書紀』巻21用明天皇即位前紀で「天皇は仏法を信じ、神道を尊ぶ」とあり、仏法と神道が対立概念ではなく、対句として出てきている。外来の仏法に対して日本在来の神々の宗教が神道で、神々を祭ることが天皇の役割だった。

同じく巻25孝徳天皇即位前紀には「仏法を尊び、神道を軽んじた」とあり、その根拠として「生國魂神社の木伐った」と記されている。当時は都の造営など、多くの建設資材が必要とされた時代で、それまで社叢には手をつけていなかったのが、周辺に木がなくなり、最後に神の鎮まる森を伐るというタブーを犯したということだろう。特記してあることで逆に、社叢の木を大切にしていたことがわかる。

日本の律令の特色は、太政官と並立して天皇直属の機関として神祇官をおいたことだ。延喜式神名帳には神社(かむつやしろ)2,862社が掲載されているが、宮がつく(=常設の社殿を持つ)のは11社のみに限られる。社(やしろ)の「や」は屋根、「しろ」は普段はあけてある土地で、祭の時に仮に建物を建てるという意味で、周囲には聖地として森を作る。

万葉集では社を「もり」と読ませる例もあり、『出雲国風土記』では「樹林がこれすなわち神社である」と述べている箇所がある。これらのことから、森そのものが神社の原型と考えられ、今でも大神神社には、神体山である三輪山そのものが神の場所として祀られ、拝殿はあっても社殿はない。

『日本書紀』の成立は8世紀で、これ以前に「神道」はないが、記録のない時代から、山は「御山」「御岳」「大山」などと呼ばれ、そこには地元の自分達の神が鎮まっていたのであり、現在に伝わる祭

神の名前は古代王朝との関係のなかでつけられたものだ。神社は神道化する前からあり、神道として記載されたことで森が神道化したと言えるだろう。

**日本人の神聖感覚** 西洋キリスト教の影響を受け、神は全知全能のGODのイメージが強くなったが、日本の神は身近だけれども、目には見えない。以前は神の語源は、上(かみ)にあるものからきたと言う説が有力だったが、上のミと神のミの発音が違っていたことがわかり、今ではクマ(隈・隅・熊・神)、クム(隠む)、コム(籠む)など、こもっているものがカミとなったという説が有力になっている。ここで重要なのは、上下は垂直の概念だが神は水平の概念、本末の関係だということだ。山の奥、川の奥に隠れたものが神で、源に隠れて見えない、隠れていて里の生活を支えている存在を神という。

祭は神の「みあれ(み=御 あれ=出現する)」を待つ行為で、祭とは神のみあれを待って、奉仕をすることを意味する。奥から里、後ろにある大きな森から小さな森(=社叢)に神を迎えるが、人は見ることができない。奥という概念は、日本の町の構造にも影響を与えている。町には奥があり、普段はそこに鎮まっていた目には見えない神が祭のときに出てくる。神が目に見えないということは偶像をもたないということで、人は鎮まっていることを心に描きながら参るのである。

平安以降の仏教では本尊が秘仏化するが、これは日本仏教の特色で、一定の日に開帳するという行事は神と祭の構造と同じで、日本人の神聖感覚の表れだ。また、稲を持って神を祭る行為は神道の真骨頂であり、稲魂は聖なるもので、宗教的に大きな意味をもつ。

神は生き生きとした、生气満ち溢れたところに宿り、豊かな自然であるからこそ鎮まるのである。社叢の維持が困難で、特に都市の森が弱っている現状にあって、社叢学会の活動はますます重要になっている。(文責=事務局)



- 8月1日～4日に、菌田稔副理事長を団長とする「東日本大震災被災社叢調査団」全9名を宮城県・岩手県に派遣いたしました。4日間で約40社を訪れ、聞き取り調査、植生調査、土壌調査のためのサンプル採取を行い、多くの成果を上げて参りました。これらの調査報告は11月のシンポジウムで発表・配布いたします。
- D. キーン名誉顧問は10月にも中尊寺を訪問されるとのことです。講演では『奥の細道』の英訳も手掛けられた氏から直接、東北紀行の感想なども聞くことができると思います。奮ってご参加ください。
- 下記の通り、『社叢学研究』10号への投稿を募集しています。論文のみならず、身近な活動などの報告も、ぜひお寄せください。

38℃って？ 高熱じゃありませんか。肺炎に罹ったのかい？ 地球くん。この熱気を電気エネルギーに変えられないものかと思うのはワタシだけではナイと思imas。

そうそ、事務局の電化製品リスト、肝心なものが抜けておりました！ 一昨年冬(シーズンオフのバーゲンだったのよ)に1,480円で買った扇風機！ これがなかなか役立ちます。午前中はほぼこれだけで凌げる(何しろ西向きだし)のだ。午後からも、この夏装着したスタレのおかげで随分マシに。それでもね、さすがに35℃とかいわれると暑いのですよ。なもんで、もお、帰る！と席を立とうとしたら、まるでどこぞで見ていたかのように、あれも！これも！の指令が。。。挙句の果てに事務局の掃除がタラン！とさ！

もうね、年中バテどす。。。 (藤岡 郁)

## 次回・次々回予告【第46・47回関東定例研究会】

\*第46回 ! 宿泊予約の都合上、9月7日までに申し込みください

- ◆日 時：9月24日(土)～25日(日)
- ◆場 所：諏訪大社下社秋宮社務所前 午後1時集合(解散は25日16時の予定)
- ◆テ ー マ：諏訪大社と社叢 現地見学会
- ◆講 師：平林 成元(諏訪大社宮司)
- ◆参加費：1万2千円(宿泊代等)
- ◆宿泊場所：ホテル山王閣(諏訪大社下社秋宮境内) TEL0266-27-8888

\*第47回

- ◆日 時：10月8日(土) 14:00～16:00
- ◆場 所：國學院大学・渋谷キャンパス120周年記念1号館3階1304教室  
(東京都渋谷区東4-10-28)
- ◆テ ー マ：東日本大震災による神社被災の状況とその対策
- ◆話題提供：小澤 淑寿(神社本庁参事・総務部付東日本大震災対策室長)

## 掲 示 板

## 『原稿募集!』

『社叢学研究』第10号への投稿：論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告」(右記参照)を募集いたします。  
締め切りは、いずれも10月31日(月)必着。

\* 書評欄では会員の皆さまの著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい。

### 「鎮守の森の活動報告」

祭、音楽会、調査などの活動、抱える問題点などを1,200字程度でご報告下さい。  
手書きでも結構です。写真やイラストなども、お添え下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916

URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内

TEL080-1514-5032 E-Mail [shasougakkai@hotmail.com](mailto:shasougakkai@hotmail.com)

(当面、このアドレスでお願いいたします)